

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和元年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地	大分市高砂町2-33
		電話番号	097-533-4000
		ホームページ	http://www.emo.or.jp/
	大分県立美術館	所在地	大分市寿町2-1
		電話番号	097-533-4500
		ホームページ	http://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 平成30年4月1日～令和5年3月31日	県の所管部課 (局・室)	企画振興部芸術文化スポーツ振興課 TEL : 097-506-2057
-------	-------------------	--	-----------------	--

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日		
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例		
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。		
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業		
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・ iichiko音の泉ホール（中ホール 710席） ・ iichikoアトリウムプラザ ・ リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・ 駐車場（295台） 		
使用料等	<p>※終日利用の料金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ：（増税後）232,400円～511,100円（増税前）228,100円～501,800円 ・ iichiko音の泉ホール：（増税後）101,500円～227,400円（増税前）99,700円～223,300円 ・ iichikoアトリウムプラザ：（増税後）5,250円～41,900円（増税前）5,150円～41,100円 ・ リハーサル室・練習室：（増税後）3,570円～17,600円（増税前）3,490円～17,250円 ・ 映像小ホール：（増税後）36,550円（増税前）35,950円 ・ 県民ギャラリー：（増税後）9,400円～10,800円（増税前）9,250円～10,800円 ・ 会議室：（増税後）13,750円～29,450円（増税前）13,600円～28,900円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円 		
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）		

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供に関すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業。 	

施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ ・ 2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ ・ 3階 展示室B コレクション展示室 ・ 屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時）
使用料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ コレクション展観覧料：200円～300円（増税前後変動なし） ・ 展示室A：（増税後）9,420円～37,700円 / 終日 （増税前）9,250円～37,000円 / 終日 ・ 展示室B：（増税後）9,420円～37,700円 / 終日 （増税前）9,250円～37,000円 / 終日 ・ アトリウム：（増税後）4,900円～19,300円 / 終日 （増税前）4,800円～19,000円 / 終日 ・ 研修室：1,200円/時間（増税前後変動なし） ・ アトリエ：1,200円/時間（増税前後変動なし） ・ 駐車場：最初の30分以内無料。30分を超え1時間以内200円。1時間を超え30分ごと100円。 23時～翌朝8時は最大900円 ※地下駐車場は出入庫不可（増税前後変動なし）
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

4. 目標指標の達成状況
iichiko総合文化センター

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの 利用率の合計を2で除した数	平成28年度	87.0	86.1	99.0%
	平成29年度	87.0	88.0	101.1%
	平成30年度	87.0	90.9	104.5%
	令和元年度	87.0	81.2	93.3%

大分県立美術館

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
来館者数(人)	平成28年度	500,000	434,518	86.9%
	平成29年度	500,000	648,223	129.6%
	平成30年度	500,000	572,001	114.4%
	令和元年度	500,000	532,307	106.5%

5. 施設の利用状況

iichiko総合文化センター

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成28年度	8,375	15,638	20,574	19,103	23,912	17,755	
	平成29年度	20,101	23,820	15,661	17,837	16,472	19,634	
	平成30年度	16,772	23,339	20,811	20,730	22,469	21,128	
	令和元年度	17,269	16,915	18,358	18,129	23,584	26,064	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成28年度	29,040	25,642	23,389	16,332	13,061	21,041	233,862
	平成29年度	29,734	22,488	23,402	9,992	11,040	25,327	235,508
	平成30年度	18,481	21,667	22,181	9,636	18,468	24,648	240,330
	令和元年度	17,369	22,155	18,911	6,806	17,824	298	203,682

大分県立美術館

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成28年度	17,010	28,863	30,019	33,660	52,939	36,119	
	平成29年度	28,818	39,115	28,048	95,749	188,184	56,172	
	平成30年度	33,564	43,141	32,298	35,142	50,320	43,271	
	令和元年度	47,793	48,692	38,894	50,431	82,513	44,617	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成28年度	48,196	37,045	34,356	45,760	38,857	31,694	434,518
	平成29年度	46,384	32,461	29,779	41,275	33,982	28,256	648,223
	平成30年度	71,402	66,758	41,819	51,133	56,780	46,373	572,001
	令和元年度	51,327	40,787	43,737	41,850	41,245	421	532,307

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	iichiko総合文化センター ①施設利用者アンケート(令和2年3月実施):697団体(個人を含む)うち274団体回答(回収率39.3%) ②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施 ③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6か所)による意見の受付 大分県立美術館 ①施設利用者アンケート(令和2年3月実施):65団体うち45団体回答(回収率69.2%) ②施設来館者アンケート(随時):館内2カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収
	実施結果	iichiko総合文化センター ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると83.2%となり、利用者の満足度は高い。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「知名度が高い」「料金が適正」などである。 ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると82.2%であり、高い再利用意向を得ている。 ・職員の対応について、「やや満足」以上が78.1%と昨年度と比較して1.6ポイント増加 大分県立美術館 ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると91.1%となり、利用者の満足度は高い。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「知名度が高い」「施設・設備が充実」「サービスが良い」などである ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると93.3%であり、非常に高い再利用意向を得ている。 ・職員の対応について、「満足」が88.6%と昨年度と比較して11.9ポイント増加
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
(センター)センターからの電話に折り返しをした時の待ち時間が長い		用件のある担当課の電話番号が確実に通知されるようシステム改善した。

(センター)コンサート休憩時にホールの女子トイレが混雑する	遠くからでも使用状況がいち早くわかるよう標識を設置した。
(センター)楽屋付近が経年劣化してきた	楽屋の床タイルやカーペットの張替えを一部実施した。
(美術館)展示室内のサインや説明文が分かりにくい	館内掲示物については、配置や文字の色など常に改善。デザインを意識しつつもお客様に分かりやすくなるよう対応した。
(美術館)カフェメニューを増やして欲しい	企画展と連動した期間限定メニューなど6種類を提供した。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<ol style="list-style-type: none"> ① iichiko総合文化センターと美術館の管理業務に関して、それぞれの施設の特異性を考慮すべき業務を除き、清掃、駐車場等警備、植栽管理等の業務を一括で発注し、スケールメリットを活かした最適な方法で委託した。 ② iichiko総合文化センター1階のインフォメーションでは、施設の予約、チケット販売、友の会の入会などiichiko総合文化センターのサービス窓口としてワンストップで対応することはもとより、美術館の企画展の前売券を販売するなど、両施設で連携したサービス提供に努めた。 ③ iichiko総合文化センターでは大分県立美術館の、大分県立美術館ではiichiko総合文化センターの専用チラシスタンド設置、美術館連絡通路に展示ポスターを設置など、両施設の連携による情報提供体制の強化に努めた。 ④ iichiko総合文化センターと大分県立美術館共通を中心に県内の芸術文化に広く親しんでもらうための「大分県芸術文化友の会びび」について会員拡大に取り組むとともに、様々な芸術文化関連情報の発信やチケット割引等各種サービスの提供を行った。 ⑤ iichiko総合文化センターで定期的に美術館への誘導を館内放送し、互いの施設の利用促進を図った。 ⑥ 両施設の駐車場について、片方が混雑した際の誘導を徹底し、効率的運営に努めた。 ⑦ 施設と駐車場の一体的利用の促進を図るため、センター練習室利用者、会議室、アトリウムプラザ、県民ギャラリーの利用者1名に駐車券1時間分を提供し、駐車場料金の負担軽減に努めた。 ⑧ iichikoグランシアタをはじめ、センター各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行うなど、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。 ⑨ 年中無休、夜も営業という美術館の特色を活かし、夜のギャラリートーク「夜な夜な美術館」を各企画展で開催。初めて美術館に来る方に親しみを感じてもらえるようガイドツアーを実施した。 ⑩ クレジットカード決済システムに加え、モバイル決済サービスも導入するなど幅広い利用に対応できる体制を整えた。 ⑪ ミュージアムショップでは事業者と企画・開発を行ってきたオリジナル商品の販売を、カフェでは開催中の企画展と連携したメニューの提供を行った。 ⑫ より美術館を楽しんでいただけるよう、美術館来館者に対してOPAMサポーターが建物や展示物を紹介する「館内ガイドツアー」を月曜日と木曜日に実施した。
-------------	--

(ホール機能の優位性を活かした芸術性やオリジナリティの高い自主公演の開催と、利用者に親しまれるiichiko総合文化センターづくり)

- ① 県民ニーズを捉えたバランスの良い年間ラインナップの構築
 - ・バレエ、オーケストラ、ミュージカル、歌舞伎等の大規模公演から弦楽四重奏、ヴァイオリン等室内楽の小規模公演まで、各ジャンルに渡って、オリジナリティの高い自主公演を実施した。
 - ・特に令和元年度の取組として、ラグビーワールドカップの機運醸成の一環として、試合会場となった福岡・熊本の県立ホールと三県連携し「スポーツと音楽オーケストラコンサート(九州交響楽団)」を開催した。
- ② 地元アーティストや芸術団体等と協働した県内芸術レベルの向上に資する公演制作
 - ・大規模な県民協働制作バレエ「眠れる森の美女」の公演を実施し、多くの来場者で好評を得た。大分市出身の世界的ダンサー首藤康之が演出・振付をし、バレエは「おおいだ洋舞連盟」が総力を結集した96人のメンバーに、新国立劇場バレエ団プリンシパルの福岡雄大、世界的に活躍する舞踏家の中村恩恵をはじめ日本を代表するダンサー10人を加えた。オーケストラは、芸短大教授の森口真司さんを指揮者に、県内奏者に、国内主要オケのメンバーを加えた72人の特別編成で臨んだ。
- ③ 全国に発信できる公演や地元芸術団体等への支援
 - ・松竹大歌舞伎や宝塚歌劇団の全国公演の招聘を行い、多くの来場者を集めた。
 - ・バレエ「眠れる森の美女」は、全国的にも話題の公演となり、「おおいだ洋舞連盟」の人材育成でも支援になった。
 - ・世界的に活躍するアラベラ・美歩・シュタインバッハーのヴァイオリン・リサイタルは、名器ストラディバリウス「ブース」により、バッハ、ベートーヴェンから現代曲まで幅広いレパートリーの演奏会で、多彩な音色を聴かせてくれる世界レベルの演奏会であった。
 - ・新垣隆の現代音楽や小林道夫のチェンバロリサイタルは全国に発信できる特徴ある公演となった。
- ④ 新たなファン層の拡大に資する普及啓発事業の充実
 - ・芸術文化の普及・拡大を目的として、初心者が気軽に親しめるように、歌舞伎、弦楽四重奏、バロック音楽での啓発講座を開催した。
 - ・新たな分野の取組として、パントマイムの身体表現ワークショップと婚活に演劇の手法からアプローチする「劇で恋するワークショップ」を開催した。

(県民に親しまれる大分ならではの特色ある美術館づくり)

- ① 「出会い」をテーマにした新たな視点に基づく県民ニーズを捉えた展覧会の開催・誘致
 - ・自主事業として、5月～6月には、日本の竹工芸を紹介する「竹工芸名品展」、ラグビーワールドカップ大会期間中の9月～10月には浮世絵の最大会派である歌川派に注目しながら幅広く浮世絵の名品を紹介した「the Ukiyo-e 歌川派」展や昨今若い世代にも人気の高い日本刀を取り上げた「日本の美意識」展、年末年始には日本を代表する芸術家・岡本太郎の代表的な作品を通してその魅力を紹介した「岡本太郎展」を開催し、年度を通じて日本の伝統的な美術作品から現代美術に至るまで幅広くその魅力を発信する自主企画展を開催した。
 - ・また、4月～5月の「古代アンデス文明展」や夏休み期間中の「ムーン展」、9月～11月の「名探偵コナン科学捜査展」といった巡回展を招致し、多くの人々が美術館に訪れ展示を楽しむ機会を提供した。
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月2日から休館のため、「リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」の開幕を延期した。(4月6日に開幕)
- ② 大分の伝統と文化や、所蔵品の新たな魅力を紹介するコレクション展の開催とその展開
 - (1)所蔵作品の展示
 - ・2か月に1回程度、統一したテーマを設けて展示替えを行い、所蔵作品の魅力を最大限引き出すようなコレクション展示を6回実施した。4月～5月は「没後10周年 岩澤重夫に捧ぐ-自然との対話」、6月～7月は「エコール・ド・パリと竹」、8月～9月は「OPAM アニマル★パラダイス」、10月～11月は、「福田平八郎対宇治山哲平 -和洋の眼」、12月～1月は「旅する美術」、2月～3月は「美の女神たち」(新型コロナウイルス感染症の影響により3月1日で中止)を開催した。
 - ・「岡本太郎展」から自主企画展のチケットにより、コレクション展を無料で鑑賞できるとし、入場者の増加を図った。
 - (2)所蔵作品の管理
 - ・県の所蔵作品を財産台帳及び情報システムのデータベースにより適正に管理するとともに、展示・保存環境を適正に維持するため、収蔵庫、展示室等の日常的な空調管理、記録を徹底した。
 - ・また、地震や火災に備え、免震装置や防火シャッター等の定期的な管理を行い、所蔵作品の安全対策に万全を期した。
 - (3)美術品収集
 - ・県が行う美術品等の収集に対し、当財団として大分県美術資料収集委員会や大分県立美術館美術資料評価委員会に専門的な観点から必要な調査等を県と一体となって実施した。(令和元年度実績：購入8点、寄贈59点うち4点は県民2名からの寄附、寄託7点)
 - (4)美術品の調査及び研究
 - ・美術家や美術品、保存修復、展覧会企画、教育普及、県内及び県ゆかりの美術・工芸などに関する調査研究を県と一体となって行うとともに、その成果を収集事業やコレクション展に反映させるなど、職員の資質向上も含めた美術館の企画運営に活かした。
 - ・「2018年度年報」及び「紀要第4号」の編集や自主企画展「The Ukiyo-e 歌川派」のカタログの編集を行った。
 - ・東京国立近代美術館、大阪市立東洋陶磁美術館と共同して「竹工芸名品展」の図録を編集した。
- ③ 美術鑑賞の機会を提供するための地域巡回展の実施
 - ・県内2か所において、所蔵作品の地域巡回展を開催した。
 - ・6月12日～21日まで竹田市のグランツ竹田を会場に「地域まるごと美術館」を開催し、旅をテーマに約30点の作品を展示した。竹田市内の保育園・幼稚園、小中学校を招待したほか、一般向けにも公開し757名が観覧した。
 - ・姫島村の離島センターを会場に、11月15日～17日までスクールミュージアムを開催した。15日は対象を学校のみとしたが、16日と17日は村の文化祭に合わせ一般にも公開し、合わせて711名が観覧した。
- ④ アトリウムやカフェ・ミュージアムショップを中心とした、多様な価値観を提示する交流拠点としての取組を推進
 - (1)アトリウム等の活用
 - ・アトリウムではラグビーワールドカップ開催期間に合わせ、県内にある国宝の紹介や日田祇園山鉾の展示や大分の伝統工芸品を展示したほか、美術館西側広場をパブリックビューイング会場として活用した。
 - ・大分×ウェールズ友好交流The Art of Wales展の開催やウェールズのナショナルダンスカンパニーの公演等を行いウェールズ首席大臣が来館した。
 - ・そのほか、OITAドローンフェスタや鉄道模型大運動会などを開催し、多様な催事を年間通じて実施した。
 - (2)情報コーナー
 - ・美術に関する図書や情報等を紹介する「情報コーナー」において、企画展の内容等に応じて3か月に1回、書籍の入れ替えを行い、蔵書4,000冊の有効活用を努めた。
 - (3)ミュージアムショップ
 - ・株式会社千代田に委託し、企画展と連動したグッズの企画・販売をしたほか、美術館の開館に合わせた営業及び大規模イベントに合わせた臨機応変な営業にも努めるなど、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。(新型コロナウイルス感染症の影響により3月2日の休館に合わせ営業休止)
 - (4)ミュージアムカフェ
 - ・社会福祉法人博愛会に委託し、県産農林水産物をふんだんに使った質の高いメニューの提供や、企画展や季節に応じた定期的な新規メニューの開発を行うほか、美術館の開館に合わせた営業及び別府アルゲリッチ音楽祭に合わせた終演後の営業、限定メニューの提供に努めるなど、これまでの運営で培ったノウハウをベースにさらなるサービス向上を図った。(新型コロナウイルス感染症の影響により3月2日の休館に合わせ営業休止)

イベント等の充実

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入額(A)		767,769	792,783	780,522	757,169
内 訳	県からの委託料	454,465	454,179	447,611	453,114
	利用料金	307,973	333,289	327,160	300,229
	雑収入	5,331	5,315	5,751	3,826
支出額(B)		767,769	792,783	780,522	764,110
内 訳	人件費	206,973	199,870	200,126	198,087
	維持管理費	2,914	2,462	2,773	2,677
	事業費	532,802	565,371	552,543	538,034
	iichikoパートナーシップ履行 事業費	24,000	24,000	24,000	24,222
	サービス改善提案事業費	1,080	1,080	1,080	1,090
収支差額(A-B)		0	0	0	-6,941

9. 施設使用料等の収入状況

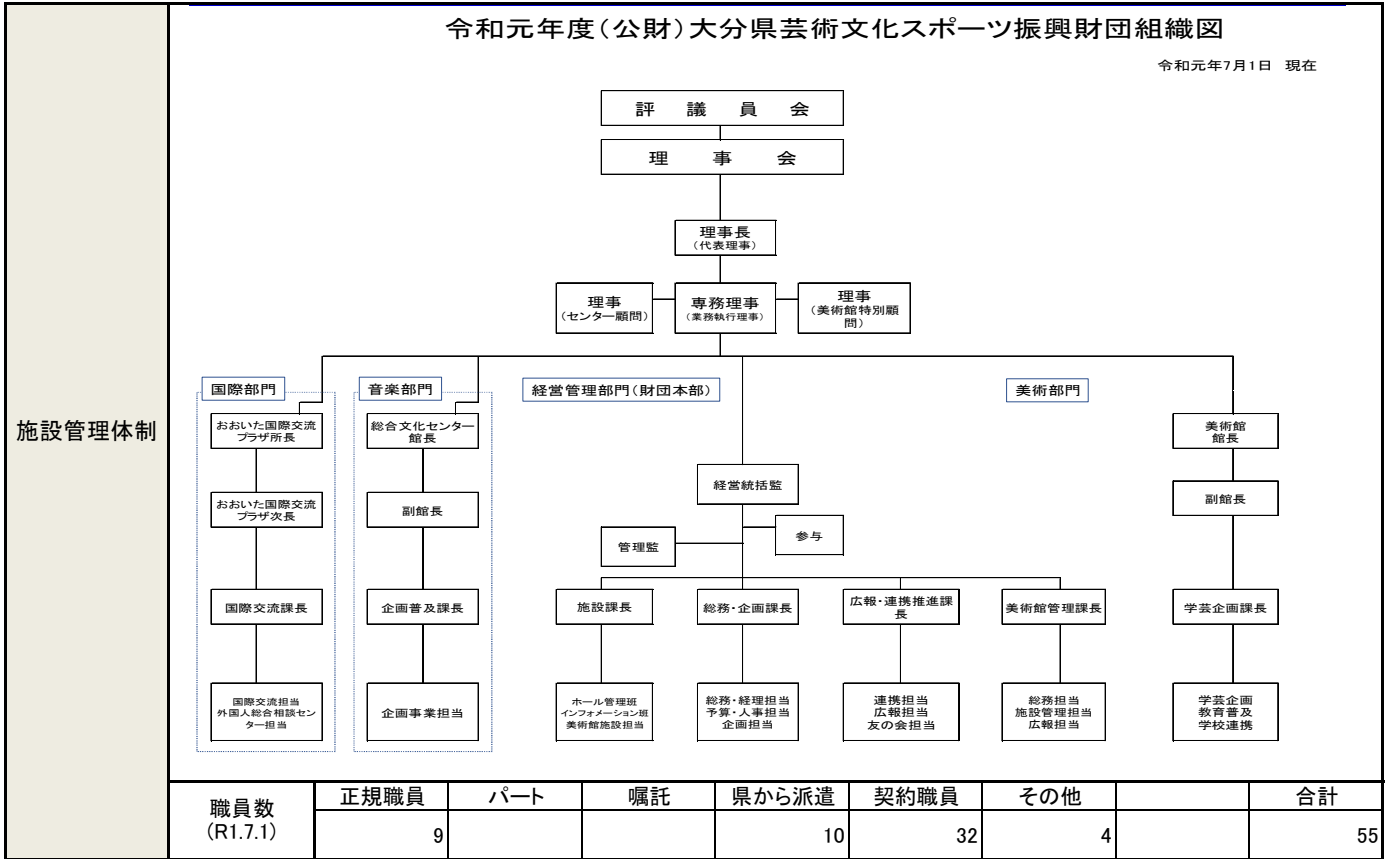
iichiko総合文化センター

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成28年度	27,326	16,613	21,971	21,317	23,136	19,705	
	平成29年度	34,125	23,475	20,365	22,470	20,170	23,210	
	平成30年度	32,676	20,121	19,208	26,448	20,415	20,705	
	令和元年度	35,382	22,773	20,734	20,453	23,727	22,264	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成28年度	26,673	22,626	19,122	20,282	12,505	23,797	255,073
	平成29年度	20,723	21,731	21,542	17,858	18,033	24,997	268,699
	平成30年度	20,334	30,417	23,457	19,038	15,090	22,570	270,479
	令和元年度	24,098	19,132	17,376	17,399	14,766	7,689	245,793

大分県立美術館

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成28年度	3,968	1,529	6,346	2,422	1,733	2,902	
	平成29年度	7,771	2,894	2,034	9,321	11,685	3,449	
	平成30年度	6,963	2,313	1,846	2,491	8,886	5,237	
	令和元年度	7,934	3,013	2,213	4,182	7,899	7,004	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成28年度	9,158	3,101	3,351	3,508	9,127	5,756	52,901
	平成29年度	8,613	2,162	2,743	3,201	6,322	4,395	64,590
	平成30年度	3,499	3,650	3,087	3,598	9,301	5,810	56,681
	令和元年度	2,919	2,379	9,088	2,627	2,820	2,357	54,435

10. 指定管理者の管理体制



11. 適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① 財団主催の研修会のほか、外部で開催されるものも含めた各種研修会を活用することにより各職員の職務職責に応じた能力を養成した。 ② 「職員面談」や「能力評価」「業績評価」を実施して職員の努力や成果を反映することで職員の士気向上を図った。 ③ 各所属における業務内容を精査した上で、「職員面談」や「能力評価」「業績評価」により、職員の適正配置や効率的な組織づくりに努めた。 ④ 「働き方改革」に対応した労働環境の整備として「出退勤管理システム」を令和2年度から導入することとし、準備を進めた。
防災に関する研修・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ① マグニチュード8クラスの東南海・南海地震発生の切迫性が指摘される中、図上訓練を行うとともに、職員以外の関係者も参加し、実態に即した防災訓練を実施した。また、センターでは複合施設管理者による合同訓練も実施した。 ② 併せて、火災や台風をはじめ、不審者(物)、感染症など、様々なリスクに迅速かつ的確に対応するため、態勢を整えらるとともに、日頃から危機管理意識を高められるよう職員に対する研修を行った。
安全対策等	<p>【iichiko総合文化センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立している。 ② 公演中の停電や機器の不具合発生など不測の事故発生を防止するため、施設・機器の利用前後の点検を実施し、施設利用者や来場者の安全対策に万全を期した。 ③ 施設の計画的・効率的な維持補修のため、県施設整備課と連携して大規模改修計画を作成して計画的な修繕等を行った。 ④ OASISひろば21の統括管理者である(株)エフ・ティー・シー大分と催事情報の共有等を図るとともに、適時、共同で施設巡回を実施し、異常箇所がないか確認を行い、異常な箇所が発見されたときは速やかに対応した。 <p>【県立美術館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 警備、清掃、設備保守の委託業者決定後、定期的に連絡会議を開催し、美術館の開館に向け情報共有を図るとともに、館内の安全対策等について意見交換を行い、開館後の施設の管理運営体制を整備した。 ② 5年目の瑕疵検査を県施設整備課、設計者、建築施工業者立ち会いで実施した。検査の結果、瑕疵が認められた事案については改善を行なった。今後も不具合箇所については、設備をはじめとした第三者委託業者と連携し、情報共有しながら改善要求を行なう。